

令和 4 年度 農林水産部 組織目標と成果

課名等	農林しいたけ課	全体	26
		個別	07-01

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり											
	最優先課題	持続可能な農林水産業を展開する											
項 目		対馬しいたけ振興事業											
取組の内容		対馬しいたけの生産農家としては、少雨や寒波など気象による不作や生産者の高齢化、担い手不足が課題となっていることから、しいたけ種駒補助事業を継続しつつ、作業の効率化を目的とした研修会の開催や担い手不足解消のための新規参入者の確保に向けた取組を行います。											
指標（数値目標）		○しいたけ生産推進 種駒補助 700万個 ○新規参入者向け研修会 2回											
SDGs指標					達成時期			令和5年3月					
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しいたけ種駒補助										→			
新規参入者向け研修会等								■				■	

指標 に対する 実績	【種駒補助】 補助対象種駒数 3,356,600個(達成率：48%) 対象経費 6,305,500円(予算執行率：42%)
	【研修会】 ・令和4年10月25日 生産者向け講習会開催 ・令和5年2月10日 上対馬支部支部会（連絡会）
評 価	大規模生産者が今年度の植菌を控えたため、大幅な購入数の減となりました。
価	評価記号 △
今後の展開	価格の低迷など、しいたけ農家を取り巻く環境はますます厳しいものとなっており、乾しいたけ品評会の開催も困難となりつつあることから、島内生産量の維持のため、種駒補助の条件を一部緩和し、補助対象者を拡大することで、新規参入者、高齢生産者への支援を行います。

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）

令和 4 年度

農林水産部

組織目標と成果

課名等	農林しいたけ課	全体	27
		個別	07-02

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり											
	最優先課題	地域経済の循環の仕組みを確立する											
項 目		学校給食地産地消推進											
取組の内容		学校給食において、対馬の特産品である原木栽培しいたけや対馬あか牛をはじめ、農林水産物やジビエとその加工品等の食材購入の一部を助成し、地産地消に寄与する。											
指標（数値目標）		第3次対馬市食育・地産地消推進計画（R4～R8）において定めたとおり、学校給食における対馬産の農林水産物を使用する割合（金額ベース）を15.0%以上に維持します。											
SDGs指標		 						達成時期		令和9年3月			
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校給食における地産地消推進		▶											
意見交換会		■										■	

指標 に対する 実績	【使用割合】 実績：18.5% (令和4年度の対馬産食材購入費/食材購入費)
	指標：15.0% (令和2年度の対馬産食材購入費/食材購入費)
評 価	各給食調理場で対馬産食材が積極的に使用され、指標を上回ることができました。 【補助】 島内6調理場：13,000,000円（執行率：100%） 【取扱品目】 購入費に対し補助率3/4の食材 (対馬産あか牛,クロマグロ,アナゴ,ジビエ) 購入費に対し補助率1/2の食材 (しいたけ,アスパラ,米,その他対馬産農林水産物)
	評価記号
今後の展開	第3次対馬市食育・地産地消推進計画において定め「学校給食において、対馬産の農林水産物を使用する割合(金額ベース)」を維持します。 ・令和6年3月：15.0% ・令和9年3月：15.0%

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）

令和 4 年度

農林水産部

組織目標と成果

課名等	自然共生課	全体	28
		個別	07-03

総合計画 の区分	挑 戦	ふるさとづくり											
	最優先課題	豊かな自然環境を取り戻す											
項 目		生物多様性の保全											
取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・シカによる生態系被害対策（捕獲によるシカ個体数管理） ・有害鳥獣捕獲従事者数の増員 ・生物多様性の損失要因対策（ツマアカスズメバチ駆除） ・希少種（ツシマウラボシシジミ、ハナズナ等）の保全活動 											
指標（数値目標）		①鳥獣被害防止計画捕獲頭数 ツシマジカ6,000頭 イノシシ7,000頭 ②地区捕獲隊増加数 3地区 ③市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罠設置 1,000か所 ④ツシマウラボシシジミ保護区設置 1か所 ⑤希少植物の分布・生育調査保護区設置 1か所											
SDGs指標		  			達成時期			令和5年3月					
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有害鳥獣捕獲事業		→											
地区捕獲隊普及活動		→											
ツマアカトラップ設置		■	■										
ウラボシシジミ調査、保護区設置		→											
希少植物分布調査、保護区設置		→											

指標 に 対 す る 実 績	①捕獲頭数 ツシマジカ10,478頭イノシシ2,852頭 ②地区捕獲隊増加数 2地区 ③市民参加型ツマアカスズメバチ捕獲罠設置 1,300か所 ④ツシマウラボシシジミ保護区設置 1エリア3か所 ⑤希少植物の分布・生育調査保護区設置 1エリア3か所	
	評 価	ツシマジカは1万頭以上を捕獲し良好であるが、イノシシの生息数は減少したと推測され捕獲数は昨年度の33.9%に止まり、地区捕獲隊は2地区を組織したがイノシシの被害減少により指標より1地区減となりました。また、ツマアカスズメバチ捕獲罠設置数は市民の関心が低下傾向であったが300箇所を上積みし、ツシマウラボシシジミ保護区設置数、希少植物の保護区設置数はともに指標を上回った。
価	評価記号	○
今後の展開	有害鳥獣捕獲事業は生物多様性の確保、生活環境保全、農林水産業の発展のため捕獲頭数の向上に努め、地区捕獲隊普及活動は捕獲技術向上など活動の質を高めていく。また、引き続き外来種対策ツマアカスズメバチ駆除と希少動植物種の保護活動を実施する。	

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）

令和 4 年度 農林水産部 組織目標と成果

課名等	水産課	全体	29
		個別	07-04

総合計画 の区分	挑 戦	なりわいづくり												
	最優先課題	持続可能な農林水産業を展開する												
項 目		水産業者や漁村への支援												
取組の内容		<p>漁業者の減少・高齢化、若年層の島外流出などにより、島の基幹産業である水産業は徐々に生産量が減少するとともに、後継者不足が深刻化しています。</p> <p>漁村の賑わいを取り戻すために、地域漁業者、行政、漁協等が一体となって新規漁業者の育成・確保に向けた支援を行います。</p>												
指標（数値目標）		<p>CATV（出演放送、文字放送）、広報つしま、公式ホームページを活用した周知広報を行い、併せて生活費を支援することで、新規就業者数を増やします。</p> <p>新規漁業研修生の確保：8名</p>												
SDGs指標					達成時期			令和5年3月						
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
漁業研修生の募集		→												
面接試験				■										
採用決定					■									
新規漁業研修生へ生活費支援							→							

指標 に対する 実績	令和4年4月～5月にかけて、CATV（出演放送、文字放送）、広報、公式ホームページを活用した周知広報を行い、新規就業者を7名（島外7名）確保しました。	
評価 価	目標値を達成できませんでしたが、島外から新規就業者が増加したことで漁業者若年層の増加にもつながり、管内漁協の活性化と既組合員にも刺激を与え、相乗効果をもたらしています。	
	評価記号	△
今後の 展開	積極的に周知広報を実施し、多くの新規漁業研修生を確保します。	

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）

令和 4 年度

農林水産部

組織目標と成果

課名等	水産課	全体	30
		個別	07-05

総合計画 の区分	挑 戦	ふるさとづくり											
	最優先課題	豊かな自然環境を取り戻す											
項 目		磯焼け対策の実施											
取組の内容		植食性動物による海藻類の食害が顕在化し、藻場が衰退しているため食害生物の駆除促進と有用資源としての活用に取り組みます。 ①漁業者や活動組織間の連携・情報共有による食害生物の駆除促進 ②島内定置網業者、漁協、対馬市水産加工連絡協議会等との連携による食害生物の利活用											
指標（数値目標）		①漁業者や活動組織間での意見交換会及び優良事例発表会の開催 ⇒年1回 ②定置網に入網した食害魚の島内水産加工業者への流通 ⇒15 t											
SDGs指標		 				達成時期			令和5年3月				
取組とスケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
意見交換会・優良事例発表会									■				
漁業集落・活動組織による食害生物駆除、岩盤清掃、海藻種苗投入		→											
食害魚の定置網による漁獲				■									
冷凍保存された食害魚の加工・販売		→											

指標 に 対 す る 実 績	(※年度終了後に記載します。) ①漁業者や活動組織間での意見交換会及び優良事例発表会の開催 ⇒漁業者や活動組織との意見交換の場として、藻場再生作業部会を開催しました。(年1回) ②定置網に入網した食害魚の島内水産加工業者への流通 ⇒31.9 t	
	評 価	(※年度終了後に記載します。) ①藻場再生作業部会の開催のほか、磯焼け対策全国協議会への参加、他の市町との磯焼け対策に係る意見交換などで得られた有用な情報については、活動組織等へ共有し、食害生物の駆除促進につながりました。 ②目標を大幅に上回る数量の食害魚を島内水産加工業者に流通させることができ、新商品・レシピの開発や販路開拓、学校給食への提供の拡大など食害生物の利活用につながりました。
価	評価記号	◎
今 後 の 展 開	(※年度終了後に記載します。) ①引き続き、活動組織等による食害生物駆除などの活動を推進するとともに、多数の漁業者等が参加できる意見交換の場を設けることができるよう関係各所との調整を行います。 ②食害魚の島内流通の仕組みが自走できるように引き続き関係各所と連携し取り組みます。	

【評価記号】◎（目標を上回る実績）、○（目標どおりの実績）、△（目標を下回る実績）、×（目標を著しく下回る実績）、－（評価不能）